

# どんぐり山行通信 志賀山

第57号

2010年9月18日(土)

晴れ

参加者 23名

しがやま (2037m)

鶴ヶ島



どんぐり山行会



先月の根子岳に続いて今月も花の百名山、志賀山だ。4日前までの猛暑が嘘のように秋めいて長袖がほしい。草津温泉を過ぎて、バスは草津白根の硫黄の匂いと火山岩の間を縫って行く。2,000mを超える高原ルートから妙高、八ヶ岳等絶景を望む。すっかり観光気分では温泉とビールかと思ひこむ。



硯川の高原ロッジから平坦な

道を歩き始める。横手山を背景に渋池が静かに佇んでいる。間もなく急な登りとなり白樺やダケ樺の間を縫って行く。白い花は盛りを過ぎたワタスゲだろうか。リンドウも咲いている。豪雨のあとで道はぬかるんでいる。志賀山



の山頂には方位盤だけで、山頂らしくないと呟いて先を行くと今度はちゃんと標識が立っている。もうひと踏ん張りして裏志賀に向かう途中で沼と湿原が見下ろせる。四八池のひとつだろうか。コバルトブルーの大沼池をみてから引き返してお弁当。今日も漬物、煮物、果物のご馳走攻め。男性隊員がシャツを着替えるので上半身裸になると女性隊員



の視線が釘付けとなり「キャー、ノーブラ」の嬌声が山にこだまする。教えてあげよう、男は胸当てを着けないのだ。金太郎の腹巻はするけれど。ガスがかかってきたころ、下に見える大沼池をめざして出発。途中道を間違えたかと思ったが、隊長の「間違いない」との一言で、突き進む。閉まっている売店前で大休止。人が少なく静かだ。沼は近くで見るより上から見たほうがきれいだ。凡人問う「大沼池が紺碧にみえるのはなにゆえか」。賢人答えて曰く「鉱物粒子が水に含まれているゆえ」と。むべなるかな。湖岸に沿って大沼池入口を目指すが、途中から平坦な道と疲れで単調極ま



りない。予定よりも早く到着して、待望のコンビニビールをリクエストする。

(伴記)

